

水道の凍結にご注意を

水道を凍結させないために

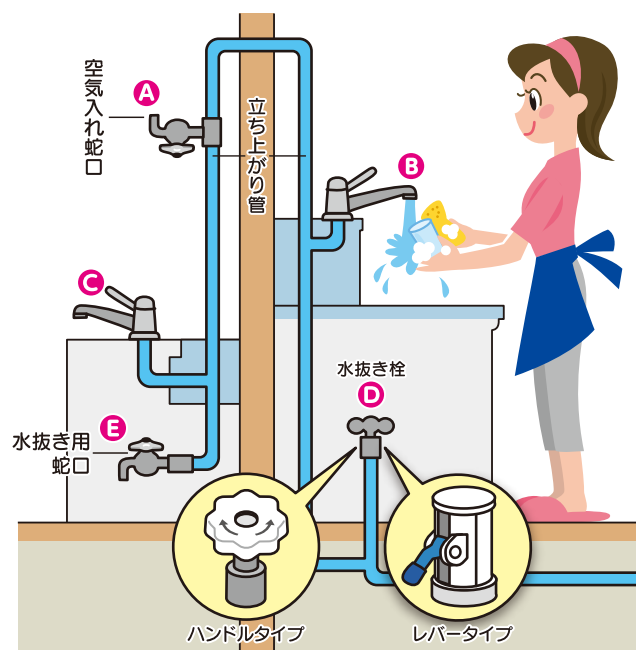
就寝前や旅行などで長時間にわたって水道を使用しないときは「水抜き」をしましょう。

※初めて寒冷地で冬を迎えるご家庭での凍結事故が多数確認されております。

-4℃が
目安です!



水抜き栓（ハンドル又はレバー）による水抜き



水を抜くとき

- ① 蛇口(B・C)を閉める。
- ② ハンドル(D)を右に止まるまで回す(レバーの場合は「止」の方向に操作する)。
- ③ 蛇口(B・C)をいっばいに開ける。
- ④ 空気入れ蛇口(A)がある場合は、いっばいに開ける。
- ⑤ 水抜き用蛇口(E)がある場合は、いっばいに開ける。
- ⑥ 蛇口(B・C)と水抜き用蛇口(E)から水が完全に出なくなったのを確認してから、蛇口(B・C)と空気入れ蛇口(A)、水抜き用蛇口(E)を閉める。

水を出すとき

- ① 蛇口(B・C)と空気入れ蛇口(A)、水抜き用蛇口(E)が閉まっていることを確かめる。
- ② ハンドル(D)を左に止まるまで回す(レバーの場合は「出」の方向に操作する)。
- ③ 蛇口(B・C)を開ける。

注意

空気入れ蛇口がある場合は、この開け閉めを必ず行ってください。給湯器などは、取扱説明書に基づき、水を抜いてください。



水洗トイレの水抜き

- ① 水抜き栓のレバーを「止」の方向に操作する(ハンドルの場合は、右に止まるまで回す)。
- ② タンクにある排水ハンドルを「大」の方向へ回し、タンクの中を空にする。

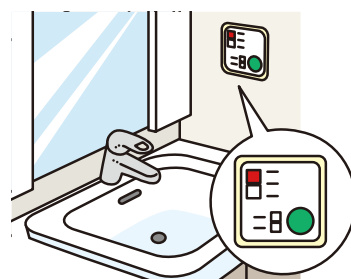


注意

便器内の凍結にもご注意ください。(水をくみ出す、不凍液を入れるなど)

水抜き栓（電動式）による水抜き

電動式の水抜き栓は、操作ボタンで水抜きを行います。(水抜き栓操作後は蛇口の開閉が必要になります)。操作方法等は取扱説明書をご覧ください。



注意

停電の際には、取扱説明書などにより復旧操作を行ってください。

もし凍結してしまったら

凍結した水道の修理

軽い凍結の修理

露出している管(保温筒などは取りはずす。)や、蛇口などにタオルを巻き付け、その上からお湯をゆっくりかけると、水が出るようになります。



注意

解氷のため、蛇口などに直接お湯をかけたり、直火を当てたりしますと、破裂や火災の危険があります。

熱湯はダメ!!



あぶない!



それでも水が出ない時は

お近くの指定給水装置工事業者に修理を依頼してください。なお、ご不明なときは水道局電話受付センター(17ページ参照)またはお住まいの区を担当する配水管理課(18ページ参照)にお問い合わせください。



凍結修理の費用は

凍結修理などの費用は、所有者(使用者)の皆さまの自己負担となります。また、修理の作業時間や修理に使った材料などによって費用は異なります。工事を依頼する前に工事内容や費用などについて、お問い合わせされた指定給水装置工事業者から説明を受けてください。

また、できるだけ複数の事業者から見積りを取るなどして内容を確認し、十分納得いただいたから工事を依頼してください。

見積り・出張費等が有料となる場合もありますので、事前にご確認ください。



水抜きが不完全な場合、水が完全に抜けず凍結や破裂の原因となります。

水抜き解説動画をホームページで公開中!

札幌 水道 凍結

検索

